

最後に Reduced VSR をヒト赤血球 (RBC) に適用する. RBC は解糖系を通してグルコースを ATP に代謝し, 細胞膜のアクティブな振動を引き起こし, それに伴いエントロピーが生成する.

この論文では3つの方法で RBC の実験を行った. 1つは異なる強度の光トラップにより, 膜に非特異的に結合したビーズを使って RBC を機械的に引き延ばす方法. 2つ目は先行研究 (11) のデータを用いて RBC 膜を機会的にセンシングする方法. 3つ目は振動セグメントの追跡により, 膜の輪郭の揺らぎを測定する方法である.

ここでは図 1 のように, 見えない変数 $y(t)$ を設定した 2 層モデルを検討した.

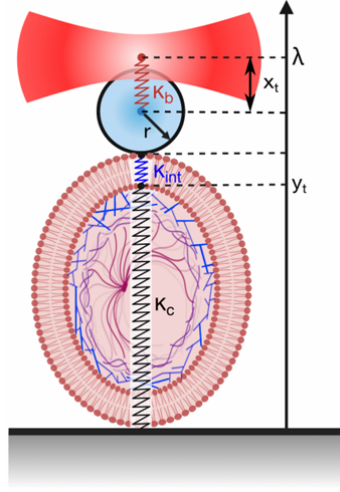


図 1 RBC モデル

$x(t)$ は測定することができる変数である. これらの変数はつぎの方程式を満たす.

$$\dot{x}(t) = \mu_x(-k_b x(t) - k_{int}(x(t) - y(t)) + C_1) + \sqrt{2D_x} \eta^x(t) \quad (0.1)$$

$$\dot{y}(t) = \mu_y(-k_c y(t) + k_{int}(x(t) - y(t)) + f^a(t) + C_2) + \sqrt{2D_y} \eta^y(t) \quad (0.2)$$

ここで k_i は実効的な力の定数であり, μ_i, η_i は移動度とホワイトノイズである. また, C_i は定数, D_i は $D_i = k_B T \mu_i$ である. $f^a(t)$ は確率的なアクティブ力であって, つぎの関係を満たす.

$$\dot{f}^a(t) = -\frac{f^a(t)}{\tau_a} + \sqrt{\frac{2\epsilon^2}{\tau_a}} \eta^f(t) \quad (0.3)$$

ただし,

$$\langle \eta^f(t) \eta^f(t') \rangle = \delta(t - t') \quad (0.4)$$

以上の方程式を用いて, 相関関数 ($t = 0$) を計算すると, つぎのようになる.

$$\begin{aligned}
C_{xx}(0) &= \mathcal{V}_x = \frac{k_B T k_y}{k_x k_y - k_{\text{int}}^2} + \frac{\epsilon^2 \tau_a k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y (w_r^x \tau_a + w_r^y \tau_a + 1)}{(k_x k_y - k_{\text{int}}^2)(w_r^x + w_r^y)((1 + w_r^y \tau_a)(1 + w_r^x \tau_a) - k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y \tau_a^2)}, \\
C_{yy}(0) &= \frac{k_B T k_x}{k_x k_y - k_{\text{int}}^2} + \frac{\epsilon^2 \tau_a \mu_y (k_x (w_r^x \tau_a + 1)(w_r^x + w_r^y) - k_{\text{int}}^2 \mu_y)}{(k_x k_y - k_{\text{int}}^2)(w_r^x + w_r^y)((1 + w_r^y \tau_a)(1 + w_r^x \tau_a) - k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y \tau_a^2)}, \\
C_{ff}(0) &= \epsilon^2, \\
C_{xy}(0) &= \frac{k_B T k_{\text{int}}}{k_x k_y - k_{\text{int}}^2} + \frac{\epsilon^2 \tau_a k_{\text{int}} w_r^x \mu_y (w_r^x \tau_a + w_r^y \tau_a + 1)}{(k_x k_y - k_{\text{int}}^2)(w_r^x + w_r^y)((1 + w_r^y \tau_a)(1 + w_r^x \tau_a) - k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y \tau_a^2)}, \\
C_{xf}(0) &= \frac{\epsilon^2 \tau_a^2 k_{\text{int}} \mu_x \mu_y}{(1 + w_r^y \tau_a)(1 + w_r^x \tau_a) - k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y \tau_a^2}, \\
C_{yf}(0) &= \frac{\epsilon^2 \tau_a \mu_y (w_r^x \tau_a + 1)}{(1 + w_r^y \tau_a)(1 + w_r^x \tau_a) - k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y \tau_a^2}
\end{aligned}$$

ただし, $k_x = k_b + k_{\text{int}}, k_y = k_c + k_{\text{int}}, k_x \mu_y = w_r^x, k_y \mu_y = w_r^y$ である. これらを持ちいて時刻 t における相関関数を計算し, Reduced-VSR を考える.

$$\sigma_{th} = \frac{\mu_y \epsilon^2 (1 + w_r^x \tau_a)}{(1 + w_r^y \tau_a)(1 + w_r^x \tau_a) - k_{\text{int}}^2 \mu_x \mu_y \tau_a^2} \quad (0.5)$$